

■令和3年6月28日

おはようございます。

校長先生の声届いていますか？

今週は雨がよく降るそうです。梅雨が明けるまで、なかなかすっきりとは晴れませんが、やまない雨はありません。いい天気になるまでは、休み時間は教室で静かに遊びましょう。

さて、先週は校長先生の日記を紹介しました。今日はその続きをお話しします。

令和元年5月12日日曜日 晴れ

チエリーちゃんと夜のお散歩にてかけたときに、見知らぬおじいさんが近づいてきたところでお話したと思います。続きの少し前から読みますね。

その人の顔をよく見ると近所の人でもなく、それどころかどうも様子がおかしかった。なんかフラフラと彷徨歩くような感じで、だんだんこちらに近づいてきたのだった！

足元も少しおぼつかなくて、どこかをめざしてしっかりと歩いている感じではなかった。

とうとうそのおじいさんが、すぐ近くまでやつてきた！どうしよう？チエリーも怖いのか、かたまってわんわんと吠えもしない！ついに目の前にそのおじいさんが立ちふさがった。

すぐ近くまで來たので思わず「こんばんは」とあいさつをしました。するとそのおじいさんが

「あの、高尾台ってどこか知りませんか？」

「高尾台と言うのはこの辺にはありませんよ。」

「私は高尾台からきた、前川（仮称）と言うものです。」

そこで気づきました。この爺さん道に迷っておられるんだと。「ここは箕面の外院と言うところで

高尾台ではないですよ。だいぶ遠くですが吹田市に高野台と言うところはありますよ。」

「高野台ではなかったなあ。」

「では竹見台というところもありますが」

「あー！ それそれ。竹見台でした。」

「竹見台はここからだとだいぶ遠いですよ。歩いて2時間ぐらいかかりますよ」

するとそのおじいさんは、かぶっていた帽子を脱いで、その中に名前と住所が書いてあり先生に見せてくれながら、

「私は、3日前に佐賀県の武雄市と言うところからきました。竹見台に住んでいる私の娘が、子どもが産まれると言うので、そのお祝いに来ました。ところがなかなか赤ちゃんが生まれず、暇をもてあまし、散歩に出たところ、道に迷ってしまいました。」

「何時に家を出たのですか？」

「朝の7時ぐらいかな」

「え！ 家を出たのは朝の7時なら14時間もたってますが、お怪我とかしていませんか？ おなかは減っていますか？」

「だいじょうぶですよ。では、今から竹見台に帰りますので、道を教えてください。」

「無理ですよ。歩いて2時間ぐらいかかるし、複雑すぎてまた迷います。うちがすぐそこなので、車でお送りしましょう」

と言つてすぐに家に引き返してそのおじいさんと一緒に車で竹見台に向かった。

車で15分ぐらい走つて、竹見台と言つてもとても広いので、そのおじいさんと一緒にぐるぐると竹見台の中を見て回つた。全然道がわからない上に、夜で暗いと言うこともあって、全く家が見つからなかつた。

ひょつとしたらこのおじいさんの家族が、警察に捜索願を出しているのではと、近くの交番に行ってみた。

すると、案の定捜索願いが出されており、警察が吹田市内中、このおじいさんを探していたようだ。まさか箕面市まで行つてゐるとは思わなかつたので、交番の中がちょっとした騒ぎとなつた。

このおじいさん、朝7時に吹田市竹見台の家を出て、14時間かかって私の家の近所の山道に向かう道を歩いていたわけだ。その道をそのまま歩くと人も家もなく、まったくの山になる。もしそうなついたら、多分このおじいさんは絶対に家に戻れず、山の中で道に迷つて死んでしまつたかもしれない！

たまたまチェリーがぐずり、いつもと違う道を散歩行きたいと言って、そして偶然そのおじいさんに会つたのでこのおじいさんは命が助かつたわけだ。

その後、交番の中はちょっとした騒ぎになつた。お巡りさんが、すぐにおうちの人へ電話をして、迎えにきてくれるようになつたのみ、また、吹田警察の本庁に、無事おじいさんが見つかりましたと、うれしい報告をされていた。

しばらくして、おじいさんの奥さんと娘さんのだんなさんが迎えに来てくれた。奥さんは、泣きながら、何度も何度もありがとうございましたと、深々とおじぎしてお礼を言つてくれた。

ということで、チェリちゃんが一人のおじいさんの命を救つたという日記でした。

ちなみに、その数日後、今度は校長先生のお父さんが、買い物にて行方不明になるという事件がおきまたりましたが、今日は時間がないので詳しくはお話しません。

また、迷子になつたおじいさんはそのあとも毎年校長先生が見つけてあげた5月12日になるとたくさんのお菓子を佐賀県から送ってくれます。本当にうれしかつたのですね。

このように日記を書いていると、昔のことを正確に思い出して、それを読むたびに、心があたたかくなつたりします。ぜひみなさんも日記をかけてみてはどうでしょうか？

最後まで先生の話を静かに聞いてくれて本当にありがとうございます。

またよかつたら、今日のお話の感想を校長室前のボードにつぶやいてみてください。
これで校長先生の話を終わります。